



CASE 1

プロテック株式会社

経営企画室 取締役

小松 まい さん

Profile

設立:1987年

社員数:女性6名/男性8名

事業内容:社会福祉法人向けの基幹業務システムの企画作成、運用保守

仕事も家庭も自分自身も 大切にしてほしい

「楽しくなければ仕事じゃない」がモットーの会社です。

一生懸命仕事をするためには、私生活が幸福でなくてはならない。「困ったときはお互いさま」と思えること、社内外の困りごとを、「自分ごと」として置き換えて考えることを大切にしています。

メインとサブのペアで業務を担当することで、スタッフの急な不在にも対応できる体制を整えています。そのため、家族の急な病気などでも、気兼ねなく育児休暇や介護休暇を利用することができます。

大事な社員が働き続けられる 会社を目指して

コロナ禍でリモート体制を整えました。子育て中のスタッフは、出勤と在宅のハイブリッド型で、時間を有効に使いながら活躍中。また、夫の転勤で札幌を離れることになったスタッフは、地方からのフルリモートスタッフとして雇用を継続。さらに、地方からのフルリモートのスタッフを1名採用しました。

社員を大事に育てているので、事情があっても辞めずに働き続けられる会社でありたいです。個々に相談を受けてから、会社としてどのようにサポートできるかを相談しながら臨機応変に決めていくのがスタイル。まずは、どんなことでも相談しやすい環境心がけています。時代に合わせた新しい価値観での働き方改革をしている最中で、働きやすさを会社の魅力の1つとして、今後の雇用にもつなげたいです。



「妻の負担を減らしたい」と 育児休暇を取得

妻が妊娠期間中に大変そうだったのを見て、子どもが生まれたらもっと大変になるだろうと思い2週間の育児休暇を取得しました。妻の負担を減らしたかったのと、可能な限り赤ちゃんに触れ合いたかったためです。社内では育児休暇を取得した男性としては3人目で、前例もあったため取得しやすかったです。

育児休暇中の2週間は、遠方から手伝いに来た経験豊富な義母から、お風呂の入れ方やなだめ方、触れ合い方などを、手取り足取り教わりました。経験者からお話を聞くのが一番心強かったですね。義母のおかげで育児の心得を習得できたと思います。また、洗い物全般が得意だとわかり、妻にも頼りにされていると思います。

良いことも悪いことも 夫婦で共有していきたい

平日の帰宅後は、食器洗いと子どものお風呂を担当。妻が手作りした離乳食を子どもがなかなか食べてくれず、離乳食が妻のストレスになることもありました。仕事と家庭の両立で工夫していることは、辛いことや悲しいことがあったら、夫婦間で包み隠さず共有すること。2人で話し合い、できるだけ離乳食をあげるのは担当するようにしました。

子どもが1歳になるときに妻が職場に復帰するので、今後は苦手な食事作りにもチャレンジし、役割も分担していきたいです。

ROLEMODEL

プロテック株式会社 営業課

志田 尚己 さん

家族構成：妻、長男

社会福祉法人向けシステムの営業担当。

夫婦共にインドア派。映画鑑賞や、ゲームをしたり音楽を聴いたりするのが好き。



Q & A

ロールモデルの方に、ワークライフバランスアンコンシャス・バイアスや 仕事の取り組み方について訊いてみました！

Q

ワークライフバランスや家庭参画に向けてあなたが気をつけている無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を教えてください。

子どもの病気など、ご家庭の都合で同僚が仕事を休むことを、「奥さんが対応すれば済むことじゃないか」などと考えないようにしています

A

Q

仕事のやり方であなたが具体的にしている取組や工夫を教えてください。

細かいことでも周りの社員と情報共有することを心がけています。また、子どもが生まれたことで、以前よりも「早く帰って家族の時間を作る」ということを意識するようになりました。

A